

事件の経緯とペシャワール会の今後の活動方針

ペシャワール会 会長 村上優

中村哲先生は2019年12月4日現地時間午前8時過ぎ、日本時間12時過ぎに普段どおりに護衛の車と2台の車両に乗ってジャララバード宿舎を出て用水路作業地に向かう途中、何者かに襲われ凶弾を浴びて病院に運ばれました。一時は意識もあり、回復を祈りましたが、その後様態が急変し亡くなりました。享年73歳の生涯でした。

12月7日に中村哲先生のご遺体はご家族と共にアフガニスタンを離れ、8日帰国、翌9日に故郷の福岡に戻ってこられました。

12月11日には、各方面1800名の方々のご参列をいただき葬儀を執り行浮ことが出来ました。

今回、ご家族がカブールに速やかに出迎えにおもむき、ご遺体とともに帰国出来ましたのは、ガニ大統領をはじめアフガニスタン・イスラム共和国政府、在日アフガニスタン大使館及び日本政府、外務省、在アフガニスタン日本大使館の迅速で多大なご支援を受けることができたからです。

本当にありがとうございました。

また福岡県警や警視庁など犯罪被害を念頭においての多くのご配慮をいただきましたことも感謝申し上げます。

事件後に、国内外より深い悲しみの共感や励ましの声を多く寄せていただきました。中村先生の喪失感をみなさんに共有していただき、今後の事業継続への大きな力となりました。ただ中村先生を失った悲しみは深く、喪失感はあまりにも大きすぎます。

私共ペシャワール会は「中村先生が実践してきた事業は全て継続し、彼が望んだ希望は全て引き継ぐ」ことが、中村先生のご遺志に沿うことだと信じます。このために中村先生のご遺体に同行されたPMS副院長のジア先生と12月12日に、福岡の事務局において協議を行いました。そして以下のことを当面の方針としました。

1. 中村先生が実践してきた事業は全て継続し、彼が望んだ希望は全て引き継ぐ
2. PMS総院長は村上優が引き継ぎ、円滑な運営体制を確保する
3. アフガニスタン政府とナンガラハル州政府に安全維持に関するお願いをした後、安全に配慮しつつ事業再開を進める
4. 事業再開は中村先生を失った緊急事態を念頭に置き中村先生が指示していた医療、農業、水利・用水路事業に限定する。将来へ向けた事業は、安全などの経過を充分にみてから検討する
5. PMSの主だった職員と早い時期に直接対面し、中村医師の喪失感を共有した上で協力体制を確認する
6. アフガニスタン政府や日本外務省とも理解を得て事業を進める

7. 中村先生に殉死したPMS運転手のザイヌッラー氏と政府より派遣された護衛4名の方々にはご冥福をお祈りし、そのご家族へは弔意を表します。その上で、PMSスタッフであるザイヌッラー氏には会の規約に沿って最大限度の補償を行い、護衛の方々全員に中村家より全額寄付された香典のなかから見舞金をお支払いする。
8. 今後は様々な方法でPMSと日本側のペシャワール会の意味疎通を密にして円滑に事業を進める

以上のことを確認致しました。

中村哲先生はもうおられません。またあのよう大きな存在は再来しません。こころの中の中村先生と語り合いながら、皆様と力を合わせて事業継続を実現するために、心ある方々の支援を今後とも賜りたく訴えたいと存じます。